

# 民主島根

2016年  
**7.17**  
第1266号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 参院選・改選3議席から6議席へ躍進 野党共闘大きな成功、さらに

### 遠藤氏、尾村県議、後藤県委員長ら街頭から決意



投票日の翌朝、公約実現の街頭宣伝に立つ遠藤氏ら（松江市）

改選議席3から6議席へ躍進、野党共闘1人区で11人が当選―参院選を比例候補としてたたかいた遠藤秀和氏は7月11日、尾村利成県議、後藤勝彦県委員長、党松江市議団らとともに、松江市内で街頭に立ち、選挙支援への感謝と公約実現への決意を述べました。遠藤氏は「改選勢力による憲法9条の改悪を阻止し、『アベノミクス』ストップ、TPP断固反対、原発再稼働の中止に向け引き続き全力を挙げる」と表明しました。

野党統一候補 福島浩彦氏、健闘！  
「市民と野党共闘の芽を大きく」  
ラムの力をさらに発展させ、安倍暴走政治をストップさせよう」と呼びかけ、「平和憲法とくらしを守る政治実現に全力を尽くします」と訴えました。（2面に選挙区と比例の結果）



参院鳥取・島根選挙区の野党統一候補の福島浩彦氏は10日夜、支援者を前に、「市民が主体的にかかわり、野党が統一して選挙をたたかったことは、新しい政治、選挙を



草の根の運動で改憲阻止  
春名氏「力合わせたたかい抜く」  
中国、四国地方で活動する日本共産党比例候補として奮闘した春名直章

氏は11日朝、高知市の市役所前で、広田一・民进党県連代表、選挙区の大西聡氏とともに演説し、「私たち

振られ、「頑張ろう」との声援も送られました。春名氏は、自公などによる改憲の動きに対し、「憲法9条を守り抜く草の根の運動をさらに大きく広げていきたい。改憲を共同の力ではね返し、9条を無傷で子どもたちに引き継いでいくため、これからもみなさんとともにたたかい抜く」と表明。また、共産党が改選前の3議席から6議席に倍増したものの、自身は議席に届かず、残念な結果になったと報告し、引き続き、市民と野党のみならず力を合わせて頑張りたいと語りました。（街頭で結果報告を行う（左から）大西、広田、春名

野党共闘の勝利と日本共産党の躍進を一体に追求する最初の挑戦となった参議院選挙。日本共産党は、比例代表で5議席を獲得し、選挙区では東京で当選を勝ち取り、改選3議席を6議席へと倍増させ、非改選とあわせて14議席へと前進した。市民と野党の共闘も、その力によってこそ「政治は変えられる」という有権者の期待を広げ、全国32の1人区中、11選挙区で野党統一候補が勝利するなど極めて重要な成果となった。昨年8月1日から始まった335日間の候補者活動は、自身にとっても大きな挑戦だった。今年3月までの「鳥取・島根選挙区」候補としての活動は、初めは鳥取での活動に不安を感じていたが、支持者や後援会員、党員のみならずの温かさに触れ、すぐに杞憂に終わった。「比例」候補に変わってからも、島根県内各地で「野党共闘への感謝」の言葉と多くの激励に支えられた。選挙戦を通して、他の野党や市民のみならずの間で新しい連帯の絆ができたことは、わが党としても、私にとっても、今後につながる大きな財産だ。今回の結果について、党常任幹部会声明は「野党と市民の共闘をさらに発展させ、日本の政治を変えるうえで、日本共産党の果たすべき役割は、ますます大きくなっていく」と指摘。「今日の情勢が求める強く大きな党をつくる仕事に、新たな意気込みでたちあがる決意」としている。憲法やくらしを壊す安倍政権の暴走政治をストップさせるため、党を強く大きくし、市民と野党がさらに力を合わせて立ち向かうべき。力あわせ、未来ひらく。（遠）

### 核兵器のない世界へ 県内「国民平和大行進」日程

■7月20日（水） 鳥取県から引継ぎ	■7月26日（火） 出雲
■7月21日（木） 安来・東出雲	■7月27日（水） 加茂・大東・仁多・横田
■7月22日（金） 東出雲・松江	■7月28日（木） 木次・三刀屋
■7月23日（土） 松江・玉湯	■7月29日（金） 掛合・吉田
■7月24日（日） 平田	■7月30日（土） 頓原・赤名
■7月25日（月） 斐川・出雲	(広島県へ引継ぎ)

**鼓動**  
野党共闘の勝利と日本共産党の躍進を一体に追求する最初の挑戦となった参議院選挙。日本共産党は、比例代表で5議席を獲得し、選挙区では東京で当選を勝ち取り、改選3議席を6議席へと倍増させ、非改選とあわせて14議席へと前進した。市民と野党の共闘も、その力によってこそ「政治は変えられる」という有権者の期待を広げ、全国32の1人区中、11選挙区で野党統一候補が勝利するなど極めて重要な成果となった。昨年8月1日から始まった335日間の候補者活動は、自身にとっても大きな挑戦だった。今年3月までの「鳥取・島根選挙区」候補としての活動は、初めは鳥取での活動に不安を感じていたが、支持者や後援会員、党員のみならずの温かさに触れ、すぐに杞憂に終わった。「比例」候補に変わってからも、島根県内各地で「野党共闘への感謝」の言葉と多くの激励に支えられた。選挙戦を通して、他の野党や市民のみならずの間で新しい連帯の絆ができたことは、わが党としても、私にとっても、今後につながる大きな財産だ。今回の結果について、党常任幹部会声明は「野党と市民の共闘をさらに発展させ、日本の政治を変えるうえで、日本共産党の果たすべき役割は、ますます大きくなっていく」と指摘。「今日の情勢が求める強く大きな党をつくる仕事に、新たな意気込みでたちあがる決意」としている。憲法やくらしを壊す安倍政権の暴走政治をストップさせるため、党を強く大きくし、市民と野党がさらに力を合わせて立ち向かうべき。力あわせ、未来ひらく。（遠）